

# 外来雑草ゴウシュウアリタソウの生態と防除方法

最近、帰化アサガオやアレチウリなどの外来雑草が問題となっており、一部では作物の収穫を放棄せざるを得ない状況に陥る場合もある。最近では、外来雑草のゴウシュウアリタソウ (*Chenopodium pumilio* R. Br.) が問題として浮上しており、発生の報告をよく耳にする。ゴウシュウアリタソウは日本全国に広く分布しているが、特に関東地域のにんじん、こまつな、さつまいもなど露地野菜作でまん延し、問題となっている。オーストラリアを原産地とし、(独) 農研機構 中央農業総合研究センターの浅井氏らの調査では、家畜飼料に混入して堆肥から圃場に侵入したと考えられている。

## ゴウシュウアリタソウの生態

ゴウシュウアリタソウは、ヒユ科の一年生雑草である。発芽適温は25～30℃で、春から秋にかけて発生する。栄養成長と同時に生殖成長を行うため、発生期間中のほとんどで開花し、種子を生産する。埼玉県農林総合研究センターの岩崎氏は、好適な条件下では出芽後3週間で種子を生産し、その種子は直ちに発芽できることを確認した。また、1株当たりの種子生産量も多く、増殖率が高



写真-1 発生初期は小さい双葉をつける

いという特徴があり、このことが問題化している要因と思われる。

発生始めは小さい双葉をつけるが、生育が進むにつれて切れ込みの入ったギザギザの葉になる (写真-1、2)。障害物がなければ水平方向へと茎を伸ばして広がるが、障害物があったり個体数が増えると垂直方向に生育する (写真-3)。草丈は15～40cmになる。花は緑色で小さい突起物のように見え、茎と葉のつけ根である葉腋につく (写真-4)。

## ゴウシュウアリタソウに対する各種薬剤の防除

野菜作で使用される各種除草剤を使って、発生前および発生始期のゴウシュウアリタソウに対する効果を確認した (図-1)。なお、ゴウシュウアリタソウの種子は、J A全農ちば営農技術センターの圃場で採取したものを使用した。

試験をした薬剤のほとんどが効果を示し、特に「ゴーゴーサン乳剤30」「ロロックス」の効果が良かった。「デュアルゴールド」「クレマート乳剤」も高い効果を示した。「トレファノサイド乳剤」の効果は他剤と比べてやや劣ったが、夏の温室内が高温であったため、揮散により薬剤が失われた可能性が高いと考えられた。「ロロッ



写真-2 生育期になると切れ込みの入ったギザギザの葉になる



写真-3 垂直方向に生育する

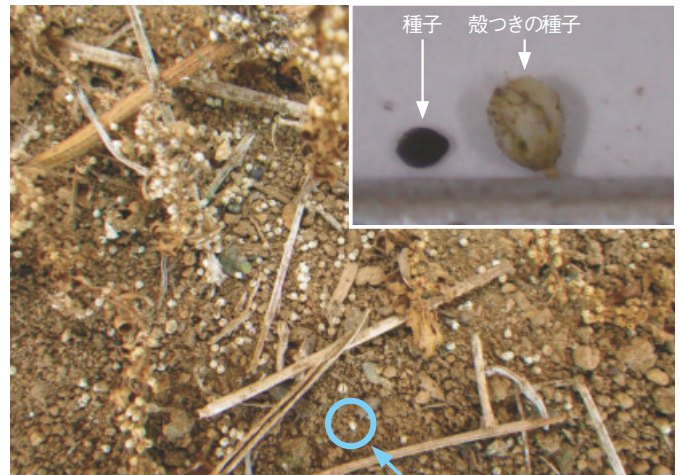


写真-5 地面に落下した殻つきの種子



写真-4 葉腋につく花

クス」については、発生始期処理においても高い効果を  
示し、今回の試験では発生前から出芽後までのゴウシュ  
ウアリタソウの防除に有効であると考えられた。

埼玉県農林総合研究センターの岩  
崎氏と岩手県農業研究センター県北  
農業研究所の藤沢氏は、カーバマナ  
トリウム塩液剤（キルパー）、メチ  
ルイソチオシアネート油剤（トラペ  
ックサイド油剤）、クロルピクリン  
くん蒸剤およびダゾメット粉粒剤  
（ガスタード微粒剤）などの土壤く  
ん蒸剤が有効であると報告している。

このように、ゴウシュウアリタソ  
ウの防除には除草剤、土壤消毒が有  
効であるが、実際に除草剤を使用す  
る際はラベルを確認して正確に薬剤  
処理をしていただきたい。

今回の試験に用いた薬剤の登録作物を表-1にまとめた。ほうれんそうなど葉菜類に対して使用できる除草剤は少ないため、土壤くん蒸剤による防除効果に頼るところが大きいと考えられる。ゴウシュウアリタソウの防除については、種子を生産する前にできるだけ早く圃場内から除去することが肝要である。また、堆肥を圃場に投入する際は、完全熟した堆肥を投入することが雑草種子の侵入を防ぐことにつながる。これは、雑草種子のほとんどが60℃以上の環境で死滅するためであり、未熟な堆肥の投入は、ゴウシュウアリタソウに限らずほかの外来雑草の侵入にもつながるので注意していただきたい。

【全農 営農・技術センター 農薬研究室】

表-1 試験に用いた薬剤の登録作物 (2014年10月3日現在)

薬剤	登録作物
ゴーゴーサン乳剤	さつまいも、にんじん、たまねぎ、ねぎ、キャベツなど
ロロックス	にんじん、やまのいも、ねぎなど
デュアールゴールド	かんしょ、えだまめ、さといも、キャベツなど
トレファノサイド乳剤	にんじん、やまのいも、なばな類、非結球アブラナ科葉菜類など
クレマート乳剤	キャベツ、ねぎ、やまのいも、にんじんなど

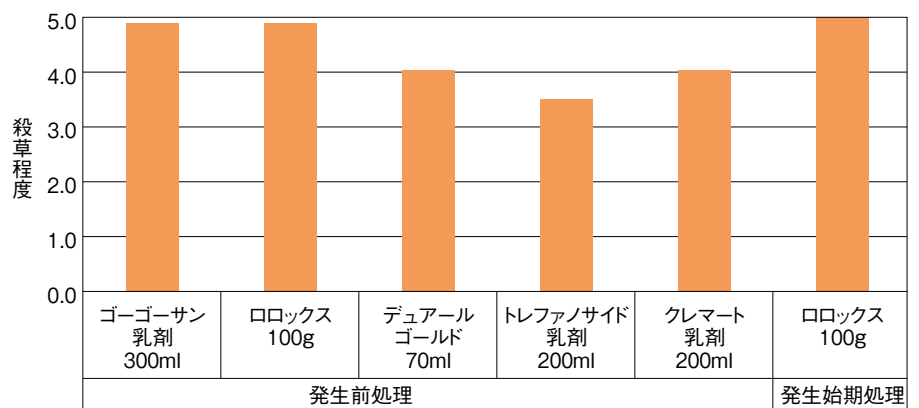


図-1 ゴウシュウアリタソウに対する土壤処理剤の効果

試験場所：全農 営農・技術センター 農薬研究室ガラス温室内  
薬剤処理：2014年6月18日にゴウシュウアリタソウの発生前および発生始期に薬剤処理を行った  
調査：薬剤処理22日後に殺草程度【0=効果なし、1=小、2=中、3=大、4=極大、5=完全枯死（4.0以上が実用上有効）】を目視で調査した